

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 3 部門第 2 区分
【発行日】 平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】 特表 2004-517151(P2004-517151A)
【公表日】 平成 16 年 6 月 10 日 (2004.6.10)
【年通号数】 公開・登録公報 2004-022
【出願番号】 特願 2002-559415(P2002-559415)
【国際特許分類第 7 版】

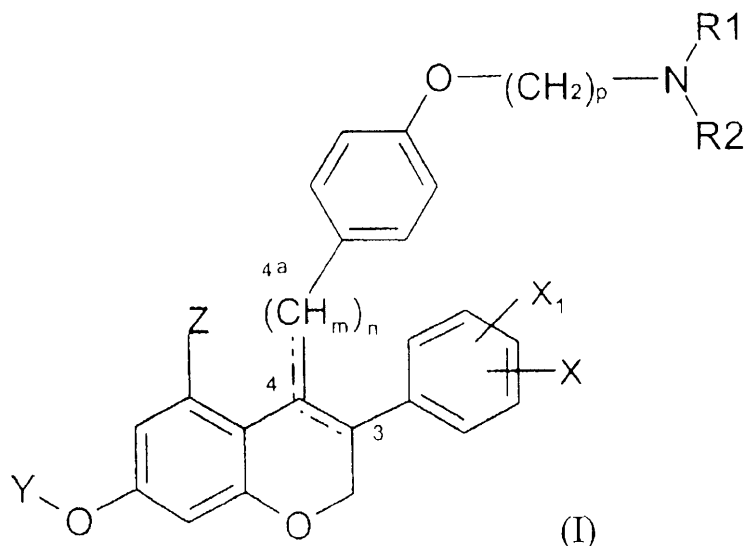
C 0 7 D 311/58
A 6 1 K 31/453
A 6 1 P 5/30
A 6 1 P 5/32
A 6 1 P 9/00
A 6 1 P 15/12
A 6 1 P 19/10
A 6 1 P 35/00
A 6 1 P 43/00

【F I】

C 0 7 D 311/58
A 6 1 K 31/453
A 6 1 P 5/30
A 6 1 P 5/32
A 6 1 P 9/00
A 6 1 P 15/12
A 6 1 P 19/10
A 6 1 P 35/00
A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】
【提出日】 平成 17 年 1 月 20 日 (2005.1.20)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】
一般式：

【化 1】



〔式中、 R_1 及び R_2 は独立してH、アルキル、ハロアルキル、アルケニル又はハロアルケニルであるか、又はそれらがアルキルである場合、それらが結合している窒素原子と一緒にあって、それらは4～8員複素環式環を形成することができ、

X はH、アルキル、アリール、ニトロ、ハロ、 $O-R_3$ であり、ここで R_3 はH、アルキル、アリール、アルカノイル、アリーロイルであり、

X_1 はH、アルキル又はアルコキシであり、 X 及び X_1 がアルキルである場合、それらは、それらが結合している炭素原子と一緒にあって、縮合芳香環を形成して α -ナフタレニルを与えることができ、

Y はH、アルキル、アルカノイル、アリーロイル、アルキルアミノカルボニル、アルキルオキシカルボニルであり、

Z はH、 $O-R_4$ であり、ここで R_4 はH、アルキル、アルカノイル、アリーロイルであり、

m は1、2であり、

n は0、1であり、

p は2～6であり、

----は3-4位又は4-4a位における原子の間の単もしくは二重結合を示し： n が1である場合、二重結合は二者択一的に環外もしくは環内であることができ、それぞれ $m=1$ の場合には4-ベンジリデンクロマン又は $m=2$ の場合には4-ベンジルークロム-3-エンを与え； n が0である場合、----は3-4における単もしくは二重結合を示し、 Z はHではない〕

の2H-1-ベンゾピラン誘導体及びそれらの製薬学的に許容され得る塩。

【請求項2】

R_1 及び R_2 がアルキルであり、それらが結合している窒素原子と一緒にあってピペリジン環を形成し、

X がH又は C_1-C_4 アルコキシであり、

X_1 がHであり、

Y がH、 C_1-C_5 アルカノイル又はアリーロイルであり、

Z がHであり、

m が2であり、 n が1であり、 p が2であり、

3-4位における原子の間の結合が二重結合であり、4-4a位における原子の間の結合が単結合である

請求項1に記載の2H-1-ベンゾピラン誘導体。

【請求項3】

3-フェニル-4-(4-(2-(N-ピペリジニル)エトキシ)ベンジル)-7-ヒ

ドロキシクロム－3－エン、そのエステル及び塩である請求項 1 又は 2 に記載の化合物。

【請求項 4】

3－（4－メトキシ）フェニル－4－[[4－[2－（1－ピペリジニル）エトキシ]フェニル]－メチル]－2H－1－ベンゾピラン－7－オール、そのエステル及び塩である請求項 1 又は 2 に記載の化合物。

【請求項 5】

活性成分として請求項 1～4 のいずれかに記載の少なくとも 1 種の化合物を製薬学的に許容され得る賦形剤と一緒に含有する製薬学的組成物。

【請求項 6】

複数の閉経後病理学、特に骨粗しょう症、冠動脈心臓疾患及びエストロゲン依存性ヒトガンの予防及び処置において有用な薬剤の製造のための請求項 1～4 のいずれかに記載の化合物の使用。